



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

発行:2010年12月15日  
発行責任者: 特定医療法人社団 鵬友会  
事務局長 池島 守

## ほうゆうと共に

横浜ほうゆう病院 事務部長 前沢 恒一



私が医療法人社団鵬友会に入職したのは、今から約10年前の平成13年3月のことでした。

大学を卒業後、一般企業への就職を経て、福祉系の専門学校に入学しました。そこで精神障害者福祉について学んだ私は、精神保健福祉士（通称PSW：ソーシャルワーカー）の資格を取得。東京都大田区の、地域で生活する精神障害者のための作業所に相談指導員として就職しました。

その作業所は店舗を構え、アイスクリームやリサイクル品の販売を、日々通ってくる障害者の方々と一緒に運営していました。またその方々の、様々な相談援助を行っていました。日々、入れ替わり立ち替わりいろいろな相談を受け、充実した毎日を過ごしていました。

ところが慣れとともに、かねてから希望していた「病院のソーシャルワーカーとして仕事をしたい」という思いが強くなり、当時私は横浜市に住んでいたこともあり、市内の精神科を標榜する医療機関に、片っ端から電話をかけ、求人の有無を確認しました。すると、ある所からこんな返答が。「今度、新しい精神病院つくるから、面接においで」と。これが私と「鵬友会・ほうゆう病院（当時）」との出会いでした。

今でも忘れられない日付。平成13年3月13日。その日は4月1日に開院を控えた、ほうゆう病院のスタッフが初めて集まる日でした。私は夢が叶い、医療相談室所属のソーシャルワーカーとしてその場にいました。それは同時に“無我夢中”のスタートラインでもあったのです。

あと2週間で開院です。患者さんが入院してきます。それはもう大忙しでした。医療相談室という部屋がありました。でも何もありません。患者さんを受け入れるためにも、まず事務機の運び入れから始まりました。それと同時に、病院ソーシャルワーカーとしての基礎を相談室長から学ぶ毎日。資格はあるものの、所違えば…、です。右も左もわからないことだらけ。でも2週間後には患者さんが入ってきます。今思えば、室長も焦っていたに違いありません。あっという間の2週間でした。それでもどう

にか開院の日を迎え、初めての患者さんを迎え、緊張の連続でした。

その後患者さんは毎日のように増え続け、207床あるベッドは、その年の秋には満床に。その間約6か月、スタッフ全員が自らの業務、そして時にはその壁を越えて、必死に駆け抜けた思い出が残っています。当時を知るスタッフとは、その時の思い出が今でも話題に上ります。苦労話とともに。それだけ強く印象に残る出来事でした。

さて私自身は、そのほうゆう病院に育てられ、2年後の平成15年4月には湘南泉病院へ異動。さらにその1年後の平成16年4月に介護老人保健施設阿久和鳳荘に異動となりました。その時の経験は、鵬友会ニュースレター第16号をお読みください。そして昨年9月には、ほうゆう病院改め“横浜ほうゆう病院”へ異動、今年4月に横浜ほうゆう病院の第3代事務部長に就任いたしました。

約8年の時を経て、私の鵬友会の原点に戻ってきたのですが、本当にうれしいな、と思ったのは、知っている顔が大勢いたことです。それまでの2回の異動では、全くと言っていいほど知っている人はいませんでしたので、これは驚きでした。それと同時に、平成13年の開院をともにしたスタッフと、また一緒に仕事ができると思うと、それは嬉しかったです。

先日、横浜ほうゆう病院の平成22年度忘年会が催されました。その日は同時に、小阪院長の発案である、横浜ほうゆう病院10周年表彰状授与式が執り行われました。これは、平成13年の病院立ち上げ時に尽力したスタッフを対象として、現在も横浜ほうゆう病院・鵬友会で活躍している職員を表彰するというものでした。対象者は21名。小阪院長から表彰状の授与と記念品の贈呈を行いました。全職員の15%という、決して多い人数ではないかもしれませんが、しかし、その人たちがいたからこそ、今の横浜ほうゆう病院がある。その思いを確信した式典になりました。

お恥ずかしながら、そんな対象者の中に私も含まれていましたが…。

# 作 業 療 法

認知症専門  
～横浜ほうゆう病院～

認知症の方のリハビリテーション（作業療法）では、症状の中に隠されている残された能力を見つけ活動に活かすことや、患者様の能力を活かすための環境や対応を整えることが重要であると考えています。その方が楽しんだり興味を持って行なえる活動を提供することで、認知症の進行を遅らせたり日常を穏やかに過ごすことができます。今回はその活動の一部をご紹介します。

文：作業療法科科长 井上



**【園芸療法】** 季節の野菜や植物を育てています。水まきや花壇の手入れは分担して行っています。今年もたくさんのサツマイモが収穫できました。

**【回想療法】** 懐かしい物や写真に触れ、昔の体験や思い出を語り合います。参加者の方は、人生を振り返りながら、いきいきとした表情でお話をされます。



**【制作活動】** 季節に応じた作品を皆で協力し合って作っています。また、計算や漢字の読み書きも行っています。

**【集団体操】** 食事前の嚥下体操のほか、座位や立位での訓練など、それぞれの方に合ったリハビリを行っています。

## 横浜ほうゆう祭り -雨ニモマケズ-

当日は雨。外に設置した舞台も濡れはじめ、慌てて院内に場所を移したのは開始1時間前のことでした・・・

10月20日（水）横浜ほうゆう病院恒例のお祭りは生憎のスタートとなりましたが、ハッピーを着たり神輿を担いだりと室内は熱気ムンムン。そしてボランティアの方がフラダンスや歌を披露すると会場は一気にお祭りムード。皆、時を忘れて歌にダンスに夢中になっていました。

最後に食べた、患者様自ら育て収穫したサツマイモで作ったいもようかんは格別でした。



## 秋のハイキング ～サン・アリス in ブーラシア～



10月27日（水）、横浜ほうゆう病院デイケア「サン・アリス」はハイキングに出かけました。行き先はあの「よこはま動物園ブーラシア」。当日は晴天にも恵まれ、デイケア利用者様24名、職員11名、さらにボランティアの方4名にもご協力いただき、総勢39名の大所帯で、園内散策を楽しんで来ました。動物をご覧になった利用者様から大きな歓声が上がったり、青空の下、当院栄養科特製の行楽弁当を食べながら秋の風情を満喫でき、とても大好評でした。

「サン・アリス」では、今後もこのような外出計画を充実させ、利用者様の要望に応じていきます。 文：作業療法科主任 石谷



## 市民向け医療・福祉講座 開催します！

【テーマ】看護・介護の現状 -新中川病院の取り組み-  
～チーム医療を目指して～

【日時】平成23年2月19日（土）13：30～ 【場所】新中川病院 【参加費】無料  
お問い合わせは、鵬友会本部 045-810-0331まで